

南河内第二中学校区

令和6年度 小中一貫教育まとめ(令和6～7年度 1年目)

《長期ビジョン》
夢と希望をもち、たくましく未来を拓く児童生徒の育成

【目指す子ども像】

(まなび) 主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども
(こころ) 思いやりの心を持ち、自他を大切にできる子ども
(からだ) 健康に関心を持ち、体力向上に励む子ども
(つながり) 社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども

【実践研究課題】

実践研究【聞いて考える力の育成】 教育活動全体を通して、聞いて考える力を育て、相手の考えや気持ちを理解し、自分の考えを深めることができる子どもを育成する。重点教科(小学校:国語、中学校:各教科)

各部会の取組

<学習指導チーム>

【児童生徒の実態】

知的好奇心や学習意欲は高い傾向にあるが、個別指導が必要な児童生徒が増えてきており、学習に限らず、学級経営にも工夫が必要である。興味・関心のあることについては、積極的に発言できるが、集団や他の意見に対しては、関心がやや薄く、話し合いながら問題を解決したり、学びを深め合ったりする力がやや低い。

【部会のねらい】

他者の考えを受容しながら聞くことにより、更に自分の考えを広げ深められるような「豊かな対応力」を育成する。「豊かな対応力」の土台となる「聴き合う力」の育成を目指す。小学校では、重点教科を国語とし、中学校では、特に教科を定めず各教科で実践する。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連続・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	①「豊かな対話力」の土台となり、「聴き合う力」を育成するための実践 ②「聴き合う力」を育成する教師のコーディネート力向上のための情報交換 ③小中学校相互の授業参観
成果	小学校:必然性のある「聴き合う」場面を設定するためには、単元を見通す必要があり、単元計画についての教師の意識の高まりが見られた。 中学校:授業において、聴き合う場面を設定し、聴き方の観点を示すよう努めた。また、一人一授業を公開することにより、他教科の教員からのアドバイスが得られたことがよかった。他教科の授業での子どもたちの様子を見ることが、自分の授業改善につながった。 全体:友達の意見を聴き、それをもとに、自分の考えを再構成する姿が見られてきた。部会の教員同士が授業を見合えるよう、日程についての情報交換を早めに行い、可能な限り、他校の授業参観をした。
課題	小学校:何のために話し合うか、必然性のある話し合いについて、更に考えていく必要がある。 中学校:教科によっては、「聴き合うこと」を取り入れるのが難しかった。変容についての見取り、評価も難しかった。 全体:聴き合う場面の設定はできたが、さらに、聴いたことにより自分の考えを再構築する場をきちんと設定する必要がある。話し合いをしたら、必ず、自己の変容などについて、振り返る時間をとるようにする。教職員間では、例年より活発に相互の授業参観が行われたが、S&Uの日程などは、重なっていることが多かった。



緑小6年生:国語「考える」とは



二中1年生:理科「光による現象」



祇園小5年生:国語「たずねびと」

